

第2回周南市合流式下水道緊急改善事業
事後評価アドバイザー会議 議事録

日 時：平成28年2月3日（水）13時30分～14時30分

会 場：周南市上下水道局庁舎3階会議室

出席者：委員5名

（佐賀委員、前田委員、小林委員、磯村委員、大石委員）

オブザーバー2名（環境政策課1名、下水道施設課1名）

事務局7名

欠席者：橋本委員

傍聴人：なし

1. 会長あいさつ

2. 会議成立の確認

委員6名のうち、5名出席で会議が成立

3. 議事

1) 対象事業の進捗状況

2) 目標の達成状況と達成の見通し

3) 対象事業の整備効果の発現状況

4) 事業の効率化に関する取り組み状況

5) 今後の方針

（事務局が資料をもとに説明。）

委 員：スライド14について、部分分流化、雨水分離、せき嵩上げに、丸がついていないものがあるが？

事務局：緊急改善計画にて、対策の必要な箇所に対策を実施しており、必要としたところ全てに実施済みという表記となります。（スライド9が計画で、スライド14が実績となる。）

事務局：補足説明として、スライド39について、長寿命化事業で、管路に余計な水が入らない対策をすすめていきたいと考えている。スライド19にある貯留管の設置には、事業費56億円で、3.9kmの布設は現実的に非常に困難である。他課との協力も必要であるが、透水性歩道や各家での貯留枳などを検討したいと考えている。

委 員：長寿命化事業というのは、全部を新しくするのではなく、既存の性能を活かして、効果を出していくというイメージですね。

事務局：補足説明として、スライド29について、H18ごろに1号遮集管のコーティングによる不明水対策を実施しており、日平均汚水量が減少し

ています。

委員：そのことがわかるように、図示するとわかりやすい。

事務局：そのようにします。

委員：スライド37について、ソフト対策の「2. 雨水を直接下水道に流さず有効利用を検討する。」の意味は？

事務局：雨を貯めて庭木の散水利用など、下水道へ入れない雨水の利用。合流式下水道の仕組みが複雑で、表現が難しい。

委員：雨水は、屋根から雨どいへ流れる雨水のことですか？

事務局：そうです。

委員：ソフト対策の1、3、4は、費用の持ち出しなくできるが、2だけは初期コストが必要であり、とても大事であると思われる。

事務局：具体的にイメージできるようホームページの表現を工夫します。

委員：スライド32について、ゲリラ豪雨が増加している傾向であることは理解できたが、合流改善にとってはどのように影響するのか？

事務局：合流改善の評価は10～30mm時の雨であるが、ゲリラ豪雨というのは、より多くの雨水が流れてくるときなので、希釈が大きくなり、量が多くなればなるほど、雨水が流れるのと同じことになり、合流改善への影響は少ないと考えている。

委員：スライド27について、赤の設定除去率を超えている部分についての解析はしていますか？

事務局：雨が多いのかなど様々な要因を解析してみたが、これといった原因は特定できなかった。月2回の法定検査の結果であり、スポットサンプルによる大きなバラツキとも考慮できる。(会議後確認：分流並みであるということを平成14年度の計画策定時に設定した設定除去率であって、ほとんどの実績放流水質が設定内にあり、設定がおおまか問題ないと判断できるとのこと。仮に設定除去率を、実績時を全部含むように上げる場合、目標値も同様に上がるため、達成状況に変わりはないとのこと。)

4. その他

次長あいさつ